

スクールカウンセラーだより

No.2

令和3年5月

※ペーパーレス化を図るため、次号より
Teams 及び学校 HP での掲載となります。



スクールカウンセラー 中野隆治

「友」



とも きた また
朋有り遠方より来る、亦楽しからずや。

こうし るんご
(孔子「論語」)

(友達が遠くからやってくる、なんと楽しいことではないか。)



数多くある中国の思想家・孔子の言葉の中で、好きなものの一つです。友人関係はこうあるべきものだと思っています。友人(この場合、親友と言っても構いません。)は、近くにいなくてもいいのです。遠く離れた所、あるいは、自分の思いの中の存在であってもいいと思っています。

逆に考えれば、今の自分が一人ぼっちであっても構わないのです。親友が、たとえ遠く離れていても、自分を支え、自分を理解し、認めてくれているのですから。そんな友達が、遠くから、それこそ、ただ自分と会うためだけにやってくる、こんな嬉しくて幸福なことがあるだろうか、二千年前の孔子は、きっとそう言いたかったに違いありません。

今の時代、マスク越しの会話をすることもよくあり、顔の半分も隠されてしまって、相手が何者であるか分からない、対人関係の悩みに陥っている人もいます。そんな時だけに、親友という存在に憧れる人は多いのではないのでしょうか。

親友は、どんな関係でもよく、同性でも異性でも、年令の隔ても関係なく、お互いが心を許し、深く理解しあつた、かけがえない存在であると言えます。深い心のつながりを持った存在なのです。そう考えると、親友とは、簡単に作ることは難しいのではないか……。実はそうではなく、誰にでも簡単に作れるものなのです。誰でもが、心の中に、その人物の存在を思い描けばいいのです。その親友がいるから、頑張っていける、その親友が自分を支えてくれている、そう思えばいいのです。

親友が近くにいたら、その人は幸福と言うべきでしょう。近くにこれはという人がいたら、思い切って近づいてください。親友は恋人と同じで、自らアクションを起こさなければ作れないかもしれません。ただし、いなくても気にすることはないのです。毎日、メールや電話やSNSで、相手の心の動きを気にすることもなく、お互いの心を探り合つて、いらいらすることも必要ないのです。親友は遠方にいるのですから。親友は遠い所にいて、時々、思い出したように連絡を取り合つて、あるいは、思い出している存在が理想ではないのでしょうか。

そんな親友はまだいないというのなら、近くの誰かや、かつて、出会った人でも構いません。自分がこうありたいと願い、このように生きていたいと思っていることを実現している人物がいたら、心の中で、その人物を自分の親友にしてしまうのです。その人物は、時に、みなさんを支え、叱り、励まし、勇気を与え、時に一緒に涙し、時に喜び合ってくれるに違いありません。そんな存在を、ぜひ一人、作ってみたらどうでしょうか。人生が豊かになったような気がするのではないのでしょうか。